

平成22年度事業報告

I. 総括

II. 愛鳥思想の普及啓発に関する事業

1. 第64回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」
2. 第45回全国野生生物保護実績発表大会
3. 平成23年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール等
4. 野鳥保護に関するキャンペーン等
5. 中国トキ保護・増殖支援活動
6. 探鳥会・自然観察会等
7. 愛鳥懇話会
8. シンポジウム
9. 図書・愛鳥教育教材等
10. バードピア計画
11. 愛鳥標語募集

III. 鳥類保護の調査研究等に関する事業

1. 受託事業
2. 請負事業
3. 自主調査・研究等活動
4. 鳥類保護・共生推進活動

IV. 広報活動に関する事業

1. 機関誌「私たちの自然」
2. ホームページ
3. 愛鳥週間の広報
4. 連盟活動の広報

V. 組織活動に関する事業

1. 会員の維持拡大
2. 支部との連携強化
3. 専門委員活動の拡充
4. 愛鳥モデル校との連携強化
5. 関係団体との連携・協力
6. 表彰制度の拡充
7. 外部支援・協力導入態勢整備
8. 本部活動の推進

I. 総括

平成22年度においては、自然環境保全にかかわる公益法人としての社会的な役割の拡充及び会員の維持増強を念頭において、次の4つの分野の事業を実施し、その概要は以下のとおりであった。

1. 愛鳥思想の普及啓発に関する分野

自然観察会等各種行事を実施した他、愛鳥標語コンクールを新たに実施した。また、バードピアづくりを公表し、バードピアの登録を開始した。さらに、普及啓発図書を刊行した。

2. 鳥類保護の調査研究等に関する分野の事業

受託・請負事業については、国に関する事業の受託に努めたが、前年実績を大幅に下回る結果となった。

なお、鳥類保護・共生推進基金による自主事業を開始した他、平成23年度に実施する希少な鳥類の保護にかかわる共同事業の選考を行った。

3. 広報活動の分野の事業

機関誌及びホームページの拡充に努めた。

4. 組織活動に関する分野の事業

公益財団法人への移行認定申請に関して「最初の評議員」の選考など、主要な手続き進めた。また、連盟の活動の拡充に有効と考えられる外部からの協力・支援を導入するため、ボランティア制度を設けた。

II. 愛鳥思想の普及啓発に関する事業

1. 第64回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」

日 時：5月16日（日）

場 所：石川県立音楽堂 邦楽ホール

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟・環境省・石川県・金沢市

後 援：文部科学省・林野庁

出席者：常陸宮同妃両殿下、環境事務官、石川県知事、金沢市長等約400名

式典では、連盟総裁賞、環境大臣賞をはじめとする野生生物保護功労者の表彰が行われた後、金沢市立三谷小学校の「ふるさとのツバメ総調査」および石川県立津幡高校生徒の「朱鷺サポート隊」の活動発表が行われた。また、式典終了後、下記により愛鳥パーティを開催した。

日 時：5月16日（日）
場 所：ANA クラウンプラザホテル金沢
主 催：財団法人日本鳥類保護連盟・石川県・金沢市
出席者：常陸宮同妃両殿下の他、全国及び地元の愛鳥家をはじめ鳥類保護関係者
約100名

2. 第45回全国野生生物保護実績発表大会

日 時：11月29日（月）
場 所：中央合同庁舎5号館2階講堂（東京都千代田区霞ヶ関）
主 催：財団法人日本鳥類保護連盟・環境省
後 援：文部科学省・林野庁
対 象：児童・生徒が野生生物保護活動を実践している学校・団体
応募件数：都道府県知事から推薦された16件
審 査 員：環境省、文部科学省、林野庁の各担当官、鳥類等の専門家

結 果：第一次審査（10月14日（木））で選ばれた小学校5校、中学校2校、
高等学校3校の計10校が発表を行った後、審査会を開催し、環境大臣
賞他、各賞を決定した。

なお、上記10校の活動実績を大会記録としてとりまとめ、都道府県および全国
愛鳥教育研究会等関係方面に配布するとともに、機関誌および連盟ホームページを
通じて情報提供に努めた。

3. 平成23年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール等

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟
後 援：環境省、文部科学省、林野庁
募集期間：平成22年4月1日（金）～10月3日（月）
対 象：小学校・中学校・高等学校等の児童・生徒
応募総数：80,943点/5,031校
審査対象：全応募作品のうち、都道府県の審査を経て推薦された385点
審 査：10月14日（木）中央合同庁舎第4号館
審 査 員：後援省庁の担当官、画家、全国愛鳥教育研究会、連盟関係者

結 果：総裁賞／津田麻菜美 兵庫県県立明石高等学校 3年
環境大臣賞3点、文部大臣賞3点、林野庁長官賞3点、日本鳥類保護連
盟会長賞9点、入選63点

なお、平成22年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールにおける総裁賞などの入
賞作品等によるポスター展を下記のとおり開催し、期間中約1,800人の来場者
があった。

期 間：平成22年5月7日（金）～5月16日（日）
場 所：新宿御苑インフォメーションセンター アートギャラリー

4. 野鳥保護に関するキャンペーン等

(1) 全国一斉テグスひろい

期 間：5月1日（土）～10月31日（日）

場 所：全国の釣りの行われている水辺

結 果：20都道府県47地点において、延べ264名（会員・専門委員・支部・一般・釣り人）の参加者により、水辺に放置されたテグスなどの釣り具その他の回収、清掃が行われた。

(2) 「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン

期 間：4月1日（日）～7月1日（日）

共 催：財団法人日本鳥類保護連盟、財団法人日本野鳥の会、NPO 法人野生動物救護獣医師協会

後 援：環境省

内 容：野鳥のヒナを安易に拾わないことを広く周知させるため、都道府県と企業の協賛、協力を得て作成した普及啓発ポスター（合計120,500枚、うち連盟29,500枚）を都道府県、教育機関などを中心に配布し、巣立ちヒナへの適切な対処方法について広く普及啓発を行った。

(3) 憲政記念館北庭園における巣箱架設行事

日 時：4月13日（水）

場 所：憲政記念館 北庭園

主 催：鳥類保護議員懇話会・財団法人日本鳥類保護連盟

参加者：国会議員9名、千代田区立麹町小学校ワークわくクラブおよびお茶の水小学校の児童を合わせた21名の他、環境省などの関係者を含め約70名。なお、今年3月中の実施を予定したが4月に順延されたもの。

5. 中国トキ保護・増殖支援活動

(1) 中国トキ保護観察団

日 時：9月10日（金）～16日（木）

場 所：中国 陝西省 洋県

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟

内 容：野生のトキ及びねぐらの観察を行った他、平成19年に完成した寧陝県のトキ放鳥基地をはじめ、陝西トキ救護飼養センター、貫溪小学校などの施設を視察、訪問して交流を深めた。

(2) 中国トキ保護支援基金

中国側の要請に基づき、陝西省周至県の陝西省珍稀野生動物救護飼養研究センターに対して、トキ用カラーリング（200個）を支援した。

6. 探鳥会・自然観察会等

(1) 初心者のための「てほどき野鳥ウォッチング」(連続3回)

一回目：11月12日(金) 新宿御苑(新宿区内藤)
二回目：12月10日(金) 多摩川宿河原堰(川崎市多摩区)
三回目：1月21日(金) 多摩森林科学園(八王子市高尾)

対象：初心者で18歳以上、原則として3回全てに参加。
内容：双眼鏡の使い方、野鳥観察の仕方や楽しみ方などの指導。
参加者：9名/(募集人数20名)

(2) 定例観察会

東京都を中心に近県の公園や緑地などで、野鳥の専門家等の協力を得て9回開催した。参加総人数は105人であった。

(3) 子ども向け自然体験プログラム

親子のための自然体験―「身近な生き物を調べよう」(全3回)―

一回目：7月31日(土、夜) 小金井公園・雑木林のいきものをしらべよう
二回目：9月18日(土) 水元公園・水辺のいきものをしらべよう
三回目：11月6日(土) 井の頭公園・冬の野鳥をしらべよう
参加者：4組8名/募集定員20名(小学生の親子)

(4) 親子野鳥観察プログラム

新宿御苑において、主に小学校の子どもと両親などを対象に、巣箱を中心とした野鳥観察プログラムを実施した。

① 「森に架けた巣箱を調べよう!」～巣箱の中のものがたり～

日時：11月20日(土)
場所：新宿御苑 母と子の森
参加者：親子17組(43名)

② 野鳥観察「巣箱を作って森に架けよう!」～巣箱から身近な野鳥を知ろう～

日 時：12月11日（土）
場 所：新宿御苑 母と子の森
参加者：親子16組（40名）

（5）愛鳥エコツアー

日 時：5月16日～17日
場 所：石川県能登半島（輪島市内、関野鼻（ヤセの断崖）、能登二見等）
主 催：財団法人日本鳥類保護連盟（本部・石川県支部）

内 容：石川県金沢市で開催された第64回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」の終了後、石川県支部と連携して、北陸地区の会員をはじめ、青森、京都からの参加者を含めて22名による愛鳥エコツアーを実施した。

7. 愛鳥懇話会

日 時：12月14日（火）
場 所：日比谷松本楼
主 催：財団法人日本鳥類保護連盟
参加者：連盟総裁常陸宮同妃両殿下、松本龍環境大臣、河野洋平愛鳥百人委員会会長、江田五月前参議院議長の他、愛鳥百人委員会のメンバー、鳥類保護関係者など、全国からの愛鳥家、鳥類保護関係者約130人。
なお、開会に先立って平成23年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールの総裁賞の授与式が行われた。

8. シンポジウム

日 時：5月15日（土）
場 所：石川県政記念しいのき迎賓館（石川県 金沢市）
主 催：（財）日本鳥類保護連盟・石川県
テーマ：「トキとの共生をめざして」

結 果：第64回愛鳥週間『全国野鳥保護のつどい』の関連事業として、大会前日に一般の方120名の参加を得て開催した。

トキ、コウノトリの野生復帰に関係する専門家、地域の環境教育や関係者など研究や保全・利用活動に携わる5名のパネリストの発表と意見交換を通して、人とトキとの共生の必要性、意義を発信した。

9. 図書・愛鳥教育教材等

（1）図書

「鳥630図鑑」（昭和60年発刊、平成14年に改訂、増補）の改訂について

ては、イラスト作成作業の進捗状況などを踏まえて、作業を中断し、計画の再検討を行った。

また、「まもろう鳥みどり自然」（平成9年発行、平成12年増刷）に替わる普及啓発図書については、平成23年1月に「鳥との共存をめざしてー考え方と進め方ー」を刊行した。

（2）愛鳥教育教材の製作、普及

下記の通り実施した。

- ① 音声再生ペンUD-PENと音声版の野鳥シートについては、ラジオ放送によるPRの他、販売促進を行った。
- ② 「コウノトリ」のバード・ピンズを新規に製作した。
- ③ 「日本の野鳥カレンダー」等の愛鳥教育教材等については、イベントへの積極的参加の他、自然公園ビジターセンター等の販売拠点拡大、首都圏の大手書店との委託販売の強化をはかるとともに、通信販売を通じた商品PRと普及促進を行った。

10. バードピア計画

バードピア（野鳥たちの楽園）計画について、下記のとおり実施した。

- ① バードピアの登録及びバードピアづくりを推進するため、パンフレットを作成するとともに、ホームページに情報を掲載した。
- ② 平成22年12月に環境記者クラブでバードピアづくりに関する記者発表を行い、平成23年1月からバードピアの登録受付を開始した。
平成22年3月末で65件の登録があった。なお、バードピアの商標登録を行った。

11. 愛鳥標語コンクール

愛鳥思想の普及啓発を目的として下記により第1回愛鳥標語コンクールを実施し、優秀作品10作品を連盟の機関誌、ホームページ等で紹介するとともに、印刷物等への掲載に努めた。

募集期間：5月10日～7月30日
応募数：20都道府県から478点

Ⅲ. 鳥類保護の調査研究等に関する事業

1. 受託事業

受託事業については、別表のとおり愛鳥思想普及啓発に関する事業、トキの保護増殖に関する中国との国際協力事業および絶滅のおそれのある鳥類の保護に関する事業等を釧路支部と連携して実施した。

2. 請負事業

請負事業については、別表のとおり林野庁からの絶滅のおそれのある鳥類の保護に関する事業の他、民間からの調査事業を実施した。

3. 自主調査・研究活動等

平成21年度に引き続いて、ワカケホンセイインコの在来生物への影響を把握するための生息状況、生態等に関する調査・研究を実施した他、ワカケホンセイインコ等移入鳥に関する情報収集に努めた。

また、活動の成果を日本鳥学会2010年度大会においてポスター発表にて報告した。

4. 鳥類保護・共生推進活動

平成21年度に創設した「鳥類保護・共生推進基金」を活用して下記の事業を実施した。

(1) 自主事業

- ① 愛鳥シンポジウム事業
- ② バードピア計画普及パンフレット作成事業
- ③ 愛鳥標語募集事業
- ④ 普及啓発図書配布事業

(2) 共同事業

共同事業を平成23年度から実施するため、平成22年8月に定めた応募要領に基づき公募を行った。応募のあった4件について、1月に選考委員会を開催し、下記の共同事業3件を選考した。

- ① 月布施の里山整備作業（月布施を考える会）
- ② 佐渡・清水平のトキビオトーブ整備・維持管理（特定非営利活動法人 トキどき応援団）
- ③ コアジサシ保全のための環境整備と効果測定（NPO法人リトルターン・プロジェクト）

IV. 広報活動に関する事業

1. 機関誌「私たちの自然」

発行回数：10回（平成22年4月号 No.555～平成23年3月号 No.564）

発行部数：4,200部

配布先：会員、関係団体、愛鳥モデル校、自然保護団体、都道府県自然環境担当部局および教育委員会等。また、広報活動の一環として各種行事において無料配布。

なお、平成22年度の年間テーマは、機関誌編集委員会の方針に基づき、名古屋で開催されるCOP10を踏まえた「生物多様性」とした。また、地域情報の拡充を図るため、「専門委員 各地のトピック」を新たに掲載した。

2. ホームページ

「全国野鳥保護のつどい」を始め、連盟の行事・イベント、自然観察会、会員募集及び図書・商品案内などの案内情報の拡充を図るとともに、各種愛鳥思想普及啓発活動等の情報発信に努めた。

また、新たに開始したバードピアづくり推進のための情報を掲載した。

3. 愛鳥週間の広報

愛鳥週間の普及のためのパンフレットを作成するための基本的な考え方の検討や資料収集等の準備を行った。

4. 連盟活動の広報

「ヤフーボランティア」のサイトへの登録を行い連盟活動のPRを行った。

V. 組織活動に関する事業

1. 入会促進等

「全国野鳥保護のつどい」、「新宿御苑みどりの月間の集い」、「ジャパンバードフェスティバル2010」等をはじめ、各種参加行事の機会を利用して、入会の呼びかけを行なった。

また、中高年層の入会促進をねらいとして、平成19年度から開始した「てほどきバードウォッチング」や東京近郊における探鳥会、自然観察会などを実施して入会促進等に努めた。

なお、5月に機関誌無料購読キャンペーンを実施して入会の促進に努めた。

2. 支部との連携強化

特に新法人への適切な移行を進めるため、支部との意見交換及び情報提供に努めた。

また、石川県支部と連携して、能登半島における愛鳥エコツアーを実施した。

3. 専門委員活動等の拡充

平成22年度から2年間の活動を行う146名に専門委員を委嘱するとともに、平成21年度に引き続き、全国的な野鳥の生息状況を長期的に見ていくため、60名の専門委員の参加を得て、全国的な野鳥のモニタリングを実施した。

また、機関誌上で「専門委員 各地のトピック」の掲載を開始し、専門委員の活動を紹介した他、メールその他による情報・意見の交換を行った。

4. 愛鳥モデル校との連携強化

愛鳥モデル校の活動の現況を調査するため、都道府県が指定している948校のうち任意の335校にアンケート調査を実施（169校から回答）し、自然観察、環境教育に関する状況を把握した。

また、平成22年度に刊行した愛鳥思想普及啓発図書「鳥との共存をめざして」を愛鳥モデル校に配布した。

5. 関係団体との連携・協力

(1) 各種行事への参加等

① 2010新宿御苑「みどりフェスタ&国立公園フェア」

日 時：4月29日（水）

場 所：新宿御苑

主 催：2010新宿御苑みどりフェスタ実行委員会

主 唱：環境省

内 容：連盟活動紹介・愛鳥教育教材等の販売・野鳥ブローチ（バイオマスプラスチック）の色塗り教室を行い、愛鳥思想普及活動と入会促進のPRを行った。（入場者数 15,000人）

② 第7回バードハウス展

日 時：10月3日（日）

場 所：都立神代植物公園

主 催：東京都環境局、東京コカ・コーラボトリング(株)、興和(株)、(株)文一総合出版、NPO法人環境学習研究会

内 容：愛鳥教育教材等の販売および愛鳥活動紹介パネル展示により、普及啓発と入会促進のPRを行った。（入場者数 4,700人）

③ ジャパンバードフェスティバル2010

日 時：10月23日（土）～24日（日）
場 所：千葉県 我孫子市
主 催：ジャパンバードフェスティバル実行委員会
内 容：「人と鳥の共存をめざして」をテーマとしたジャパンバードフェスティバルの実行委員会に参画し、愛鳥教育教材等の販売および愛鳥活動紹介パネル展示を行ない、普及啓発、入会促進のPRを行った。
なお、日本バードカービング協会主催のコンテストに協力し、連盟会長賞を贈った。（来場者数 40,000 人）

④ 野鳥を知るバードカービング展 ～ウェットランド(湿地)の自然～

日 時：6月1日（火）～6月6日（日）
場 所：新宿御苑インフォメーションセンターアートギャラリー
主 催：財団法人日本鳥類保護連盟、鳥工房「つばさ」
内 容：バードカービング展示を通して野鳥保護に関する普及啓発を行った。（入場者3,200人）

⑤ 所沢航空記念公園 巣箱プロジェクト

日 時：9月20日（月）および11月23日（火）
場 所：所沢航空記念公園
主 催：財団法人埼玉県公園緑地協会等
参加者：親子50名（9月20日）、親子44名（11月23日）
内 容：所沢航空記念公園で行われた秋の自然観察会の行事に協力参加して「巣箱の中を見よう」、「巣箱を作ろう」の巣箱プロジェクトを実施した。

⑥ COP10協賛活動への参加（東京）

COP10支援実行委員会が8月と10月に実施した新宿御苑インフォメーションセンターにおける「自然とのふれあい展示」に参画し、愛鳥週間ポスター展示を行った。

⑦ その他

葛西臨海公園 鳥類園における冬、春、秋の野鳥とのふれあい関連行事に参画し、連盟活動紹介、愛鳥思想普及啓発活動を行った。

(2) 関係団体等との連携

自然環境保全に関する環境省認可団体等との連携強化に努めるとともに、愛鳥思想の普及啓発に関して、愛鳥百人委員会、鳥類保護議員懇話会及び全国愛

鳥教育研究会等との連携を進めた。

また、愛鳥思想の普及啓発に関わる活動に対して、NPO法人との共催、後援などにより連携を進めた。

6. 表彰制度の拡充

連盟の各種事業活動及び運営に関する個人、法人、団体の顕著な貢献を顕彰する表彰制度を設けるため、準備を進めた。

7. 外部支援・協力導入態勢整備

ボランティアによる連盟活動の充実を進めるため、ボランティア規程を定め、平成23年7月から「愛鳥ボランティア」の制度を開始することとした。

8. 本部活動の推進

公益法人制度改革に関する法律に基づく新たな法人への移行を適切に行うとともに、連盟運営に関する重要事項を検討するために設置した「経営会議」を開催し、平成22年度においては、新しい評議員の選定等新法人への移行認定申請に必要な重要事項について手続きを進めた。

また、新法人への移行を踏まえて事務局組織規程を定めた。

平成22年度受託・請負事業実施状況一覧

区分	事業名	発注区分
I. 受託事業	1. コアジサシ保全方策検討調査業務 2. 愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」記念式典実施業務 3. 日中トキ生息保護協力事業 4. シマフクロウ保護増殖事業（管内生息地確立及び拡大業務） 5. シマフクロウ保護増殖事業（放鳥計画、放鳥馴化業務） 6. シマフクロウ保護増殖事業（給餌、監視、巣箱設置等） 7. シマフクロウ保護増殖事業（飼育下個体群の維持計画等） 8. シマフクロウに脅威となるアライグマの捕獲調査業務 9. ワシミミズク生態繁殖状況及び生息状況調査業務 10. シマフクロウ放鳥計画検討会開催業務 11. 温根内ビジターセンター解説・管理等業務 12. 塘路湖エコミュージアムセンター解説・管理等業務	国 (以下同)
II. 請負事業	1. 希少動植物種（シマフクロウ）保護管理業務（根釧西部） 2. 希少動植物種（シマフクロウ）保護管理業務（根釧東部） 3. サントリー天然水の森、赤城調査1 4. サントリー天然水の森、赤城調査2 5. サントリー天然水の森、丹沢調査	国 国民 (以下同)
	合 計 17件	

